

令和7年度第1回森町創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和7年10月31日（金） 14:00～15:00

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

岩井企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 森町創生総合戦略策定委員会及び第3次森町創生総合戦略概要説明について

事務局より委員会及び総合戦略の概要について説明。

～委員意見～

遠藤委員長

皆さんが意見を考えていただいている間にまず私から、ICT活用教育推進事業ですが「AIドリル」について、なかなかイメージが湧かないんですけども単純にインターネットで生成AIを使用したら、簡単に答えを出してしまうので、学習というよりただ映すだけになってしまうのではないかと心配だが、どのようにされていますか。

事務局

こちらの事業は、学生・児童用に1人1台のiPadを導入しております。そちらには、学習専門のとあるメーカーのソフトが入っており、そちらを使用して各々自宅での学習に利用する形となっております。子どもたちが生成AIを使用したりだとか、そこにも問題点はあるかもしれませんが、現時点での課題としましては、家庭学習ですとか、自宅での利用時間の底上げが課題となっている事業であります。

遠藤委員長

中西委員から、何かご意見があれば。

中西委員

今のICT教育というところですが、すべての児童・生徒に1人1台のiPadが配布されています。

その中にさまざまなアプリケーションがあり、色々なアプリケーションを使って、評価だ

とか領域だとか、学習内容に応じて使い分けをしています。

その iPad は LTE 対応ですので、Wi-Fi 環境に左右されずに、家庭でも学習することができます。

長時間化等もありましたが、ある程度規制がかかっており、本校で言えば、YouTube と少し遊びの要素が強いようなアプリケーションについては、利用時間が連続して 1 時間を超えると、自動的にある一定時間繋がらない設定にしているとか、そのようにして取り組みを進めています。

また、保護者の方が個人的に与えている端末については、利用時間の長時間化が問題になっています。学習用として、学校が貸与しているものについては、リテラシーの問題といたしますか、よくニュース等でもあるとおり SNS でのいじめだとか、使い方をどのように学習させていくかというところで学校ではよく話題にあがっております。

モラルといった部分だとか、子供たちが大人になった時には、おそらく今よりもっとデジタル化が進んでいるので、学校の中でも、それぞれの子どもたちの実態に応じて取り組みを進めていくというのが実情です。

AI ドリルについては、学校によっては、自分の目標を立てて進めていくということと、子どもたちの競争心を使って、大体どれぐらい解くのかというのやっておりますが、中学 3 年生で 1 ヶ月に 3000 問ぐらい解いたりする子もいますっていうような使い方です。自ら学ぶというところのエンジンの一つにはなっているのかなという風には思います。以上です。

遠藤委員長

ありがとうございます。では、学校の先生と AI ドリルとは関係は持てているということですかね。

中西委員

そうですね、今では端末を利用して学習課題に向き合えますし、昔は教科書とノートという風にあったと思いますが、今はノートが端末になっていて教師が準備したテンプレートを使って子どもたちに共有しながら取り組んでいるという家庭学習も進んでいます。

遠藤委員長

ありがとうございます。先生方の負担も少し減るといいですね。

中西委員

今変わっている途中なので新たに教職員も学びをして獲得をしているというところです。

遠藤委員長

ありがとうございます。

他に何かご意見だとか、岩島委員いかがですか。

岩島委員

まず、2番の木材関係の話であったり、8番の森高校の寮の話であったり、このあたりは民間企業ありきで計画が進んでいるのではないかとこのところ、民間企業があつて成功に繋がっているというのを考えると、官民との協力というのは、すごく大事なエッセンスになっているのではないかと感じており、それぞれの目標や事業に対してもっと官民協力して進めていく方が成果を出しやすいんじゃないかなと感じております。

例えば、地域おこし協力隊の活用に関して、森町に残ってはくれているけどもそのあと、実際に何をどうすればいいのか分からない子たちも結構見受けられておまして、その子たちを役場で3年間預って、個人事業主をしながら、やっているところもありますし、何か成果を出していく筋道をもう少し、手伝って、民間業者と繋げてあげるといことも視野に入れながら今後進めていけばいいのではないかなという風に感じておりました。

あと、認可保育園の無償化の話ですけども、森町はすごく手厚く、すごく魅力的な内容だと思います。それを、知らない人が多くて、例えば七飯町だとか、近隣の市町村の方と話をすると「えっ、森町ってタダなの?」「えっ、お金もらえるの?」とか、そういうお父さん、お母さんが結構多いんです。森町はすごく恵まれていて、その事を前面にPRして行って、広報して行って、近隣からの若手の親世代の人たちを呼び込むというのもありかなと感じました。子どもはすごくお金がかかりますので、その部分が森町は手厚いですよということをもっともっと出していったらいいんじゃないかなという風に思います。

事務局

ありがとうございます。まさに、これらの目標を達成するためには、官民連携なくして、到底達成できないものと認識しております。今、日本全国各地で人と金の取り合いをしている中で、協力隊にかかる期待も非常に大きく、岩島委員のおっしゃったとおり、その後、町に残って定着して、何をしていくかということは、我々も課題としていることであります。

我々の課にも協力隊がおりますけれども、そういったことを見越しながら、役場はもちろんのこと、外にも出て色々な方と人と知り合って、人という財産を作って、ここに住み着いて定着して、そういった方々から仕事をもらえるような関係を構築しなさいということは、常々伝えております。当然、役場が関与しないというわけではなく、役場からも仕事を発注するですとか、そういったことも当然考えております。また、2点目の保育関係の情報発信の部分ですが、役場全体が非常に情報発信に弱いなという部分は感じております。色々なSNS等を活用しながら情報発信に努めていくことに加えて、今年度、移住定住情報パンフレットにそういったことも触れながら、PRしているような状況でありますので、色々

なツールを使いながら、情報を広げていきたいと考えております。以上です。

② 第3次森町創生総合戦略 新規事業の紹介について

事務局より、新規事業について説明。

～委員意見～

森永委員

長期ビジョンは何年程度のビジョンを作る予定でしょうか。

事務局

今回策定するビジョンに関しては5年から10年と水産課の方から聞いております。

また、前回作ったものに関しましては概ね平成30年代の前半を目標として作っているものでしたので、現在平成だと37年時点でおおよそ目標の数値に到達しているということで、改めて長期ビジョンを考えていきたいというところでございます。

遠藤委員長

ビジョンの開始時期はいつからですか。

事務局

令和8年度という風に聞いております。

伊藤委員

これまでの議事全体について、私は今回の総合戦略の4ページ5ページ目が一番の肝になると思っており、4ページ目の人口推計について、たとえば2025年に年少人口が約1,200人、35年後には約240人ということで、今のお子さんの5分の1がいなくなり、働く人も5分の1になるということが推計で出ております。

しかし5ページ目では、かなり緩やかな数値になっていますが今回の第3次の策定においては、4ページ目の推計を受け入れながら少しでもという考えなのか、5ページ目のように、35年後も人口が1万人残るような見込みで各施策を立てているのか森町としてはどのようなイメージで策定されていますか。また、結構前に人口ビジョンを作っていると思いますが森町の人口ビジョンを修正する予定があるのかというのが1点目の質問です。

事務局

今回の人口ビジョンに関しましては10年前に作ったものを推計に使用しているため、ズレがあるとは思っております。

4月に総合戦略を策定したときにはこちらの人口ビジョンで検討していたところですが、我々もこれから総合計画の策定を控えており、総合計画に関して人口推計というのはもう

少し現状に合った数字が必要ではないかということで検討しているところです。

現時点で新しい人口ビジョンの策定をやりますとは、はっきり言い切れないですが、そういったニュアンスで捉えていただきたいと思います。

伊藤委員

わかりました。ここで、5 ページ目はなかなか厳しく、4 ページ目はなかなか現実的というところでの考え方ですが、人口も減っていく中で企業さんは企業をやって、住んでる人がその中で幸せに暮らせるような、縮みながらも幸せな森町をつくるというビジョンで考えながら取り組んだ方がいいのかなと思っています。また、事業調書のなかで第 2 次から第 3 次に向けて何本新しい事業に取り組んでいますか。

事務局

5 本です。

伊藤委員

5 本くらいですかね。1、2、3 次と私も携わらせていただいておりますが、まちひとしごとの部分で国が求めているのは、色々ないい取り組みがあって結果が出たらそれを横に展開したいというのがありますので、今見ている案だと前にやった事業を前例踏襲ですので、予算確保のために仕方ない部分はあるとは思いますが、是非ほかの自治体さんの成功している例を取り入れるか、せつかく教育部門・漁業農業部門・金融部門だとか各団体を代表して委員さんがいらっしゃるので、役場から出てくる意見に質問や意見するだけではなく、突拍子もない意見も含めて委員の方々から意見を集めて、出来るできないも含めて検討いただくという方向性も考えていかなければ、1、2、3 次であまり変わり映えのしない事業をやっている感があるので、森町のために議論をするので是非検討していただきたい。

事務局

ご意見ありがとうございます。我々としても町から出したものを皆さんにお諮りして意見をいただくだけであれば、今までの第 1 次、第 2 次と変わり映えしない内容になってしまい、町づくりに生かしていくのにはよろしくないとは思っておりますので、今後委員会などの機会の中で意見をいただいて担当課にフィードバックするというのは検討して進めたいと思います。

伊藤委員

是非その時はこの場で急に聞くのではなく、団体や企業に持ち帰って検討する場もほしいと思いますので時間的な猶予もいただきながらお願いしたいと思います。

事務局

はい。わかりました。ありがとうございます。

佐藤委員

災害時用備品等購入事業ですが、現状が 34%で 5 年後に 100%を目指しているということですが、7 月の津波の時にアルファ米が無くて、給食センターで炊き出しをしておにぎりを作ったと話を聞きました。

私は日赤奉仕団に在籍しているので、おにぎり作りの招集がかかりましたが、私も避難の最中だったため行くことができず、駒ヶ岳だとか津波の被害のない地域の団員がおにぎり作りに参加しました。

後日、アルファ米は町で持っていたのではないかと、アルファ米があれば炊き出しをしなくてもよかったのにどうしたのか、私たちが日赤奉仕団で研修をするときには森町からアルファ米を使ってくださいということで町から貰って研修をしていました。

災害の時にはアルファ米はなかったのでしょうか。

アルファ米を各避難所に配っていれば炊き出しの苦労はなかったのに、これまでの防災の練習は何だったのかと思いました。

ここでみると 34%達成していることになっているが、何をもって 34%なんのでしょうか。

事務局

この 34%の中にはアルファ米も含まれております。

防災交通課に確認したところ、孤立する可能性の高い避難所に重点的に配置しているそうです。

ここからは私の推測ですが、今回の津波の時にはトンネルの向こうへの通行規制があったと思いますので、その影響でトンネルの向こうにあったアルファ米を外の避難所へ持っていくことが出来なかったのではないかと思います。

これからの 4 年間でほかの各避難所へ配置していく予定と伺っております。

④ 今後のスケジュールについて

令和 7 年度第 2 回の開催について、令和 8 年 3 月を予定しております。

次回の委員会の際には事業の実績も出てくるかと思われますので後ほど計画を一読していただければと思います。

4. その他

遠藤委員長

これで全ての議題が終わります。今回から新しい委員の皆さんもいらっしゃいます。

この委員会は 30 年後という魅力的な町をつくるかを考える場です。

皆さんも時々でいいので 30 年後の森町をイメージして生活していただけたらと思います。

5. 閉会